

若い力で 伝統を守る

栖本町青年団

300年以上の歴史を持つ栖本太鼓踊り。
白いはちまきに赤いはんてん、華麗にバチを回し、力強く大太鼓を打つこの踊りは、県の重要無形民俗文化財に指定されている。毎年10月は河内神社、11月には栖本諏訪神社に奉納される。
この伝統の太鼓踊りを守り続けているのが、栖本町青年団だ。
同町出身の若者で構成され、現在メンバーは25人。男性は太鼓、女性は笛を担当している。
毎年祭りが近づく9月から連日



2時間の練習が始まる。「みんな仕事が終わってから活動で、正直きついと思うこともある。けど、お年寄りが子どもや孫の世代が踊る姿を見て喜んでくれる。それを見るとやっていてよかった、伝統を守っていききたいと思う」と青年団長の緒方さんは話す。
町には若い人が少なく、団員の

減少に危機感を感じている。栖本太鼓踊りを次の世代にも伝えたいと、昨年から栖本中学校の授業で直接指導を始めた。団員が直接生徒に教え、かっぱ祭りでは一緒にステージに立っている。
青年団はこの太鼓踊りのほかにも夏祭りや寺子屋体験などの町のイベントも主催。夏祭りでは司会進行を務めるなど、町の中心的な存在になっている。

仕事との両立に大変さを感じながらも、同世代が集まって活動することは楽しい。仲間意識も生まれ、それが息の合った踊りにもつながっている。
今年18日、天草市民センターで開催される「熊本の心」県民大会・くまもと家庭推進教育フォーラムではオープニングを飾る。地元だけでなく多くの皆さんに披露していきたいから、これからも若い力で伝統を守っていく。



▲迫力ある踊り



▲司会を務めた夏祭りは盛況



▲練習も気合十分

海にうかぶ
博物館

天草の自然通信

天草の石

天草の大地には1億年前からの地殻変動の歴史が刻み込まれており、ここで見られる風景や生き物などから学べるのがいっぱい。天草諸島全体が「海にうかぶ博物館」です。

今回は天草の大地を形成し産業を支えた石を紹介します。

問い合わせ先：ジオパーク推進室（天草宝島国際交流会館ポルト内）☎32-6778

◆長崎変成岩類

長崎変成岩類は岩石や地層が地中で高熱や高圧の影響で性質が変わった岩石のことで、天草や長崎県の野母崎で確認されています。天草の変成岩類の特徴は雲母類と呼ばれる結晶が多く含まれ、光を反射し光って見えます。

天草町の西平椿公園にある変成岩類は白亜紀(約7,000万年前頃)に形成されたもので、他の岩石や地層よりも古く、天草諸島の土台のひとつになっていると考えられています。



▲雲母類で光って見える



▲長崎変成岩類を包むアコウの木

◆天草陶石

天草陶石は、1,900～1,600万年前に地層の割れ目に沿って湧き上がってきたマグマが、長い年月をかけて冷え固まったもの。天草下島の西海岸に多く鉄分が少なく白い色が特徴です。

江戸時代から陶磁器の原料として質の高さが知られており、天草はもとより佐賀県の有田焼でも使用されています。

鉄分の含有量が安定していることから電柱に取り付けられる高圧ガイシ(絶縁体)の材料にも使用されています。



▲天草陶石



◀天草陶石を使った陶磁器



高圧ガイシ

◆石炭

約4,500万年前は熱帯の気候でたくさんの植物が育ち、その植物が徐々に堆積して出来た泥炭が地中の圧力や熱によって熟成したものが石炭です。

天草下島で採れる石炭は、他の石炭と比べて発熱量が大きく燃焼時の煙や臭いが少ないことから「天草無煙炭」と呼ばれ重宝されました。

明治以降の近代化を支えた石炭ですが、石油エネルギーに移行したことで天草の炭鉱は昭和50年を最後に廃鉱しました。



◀石炭



▲市指定文化財の烏帽子坑跡(牛深町)